

News Clip

あ き ひと しょう こう にん
商きない工らす人びと ふくしま商・工・人

- P2 ヒストリーインタビュー
- P3 駅ナカアンテナショップ「福島美味」コーナー
- P4 青年部・女性部だより
- P6 いいものmekke お食事処一心 大熊町からいわき市で再スタート
- P8 元気印!!ズームアップ
- P10 Information 商工会だより
- P12 掲示板

地域資源の活用に取り組む、商工会女性部発の企業組合とんぼのめ 猪股成子さんにお伺いしました。

2014.3.30
Vol.364

ヒストリーインタビュー

「女性の力で地域に元気を」
南会津町 企業組合とんぼのめ



事業紹介

当社は、商工会女性部の有志が中心となり、平成十八年二月に設立した企業組合です。

南会津町の特産品であるアスパラガスは、標高の高さが生み出す昼夜の寒暖差により、非常に甘みが強いという特徴を持っています。そのアスパラを粉末にし、パスタやうどん、ロールケーキなどに加工しています。

「とんぼのめ」という名前の由来ですが、トンボの目は、広い視野で見渡し前進するのめということに命名しました。

設立の経緯

旧田島町商工会女性部(現南会津町商工会本所)が、地産地消調査実行委員会を立ち上げ、平成十六年度から三年間取り組んだ特産品開発事業が設立のきっかけです。補助事業として地元食材の活用方法について調査・研究を行うなかで、アスパラに着目し、実に十種類以上もの新商



企業概要

企業名 企業組合とんぼのめ
 代表者名 理事長 猪股成子
 住所 〒967-0004
 福島県南会津郡南会津町
 田島字行司12
 TEL.0241-62-0329
 FAX.0241-62-4729

品が生まれました。

しかし、商品はできたものの、それ以後の事業展開については全く白紙の状態でした。そこで、「せっかくなので新たな特産品が生まれたのに、ここで消してしまうのはもったいない」と考えた実行委員会のメンバーが中心となり、企業組合を設立することになりました。

平成二十一年四月には会津一小さなアンテナショップとして「あすばら畑をオープンし、本格的な販売をスタートさせました。

3・11の影響

東日本大震災と原発事故による風評被害の影響は大きく、売上は激減しました。なんとか頑張つてはみたものの、ついには店舗を維持するだけの売上を確保できなくなり、閉店を余儀なくされました。メンバーの全員が事業の継続を諦めるしかないと思つていたとき、背中を押してくれたのは、お客様と家族でした。

農商工連携による商品開発

再開を決意し、商工会経営指導員による支援のもとで事業の抜本的な見直しを行いました。

店舗を失い、人員も限られていたため、それまで最大で十六種類あった商品を見直し、売れ筋であり賞味期限の長いパスタとうどんの乾麺、老若男女に人気のあるロールケーキの三種類に絞り込み、経営資源を集中させることにしました。

そのうえで、既存商品のブラッシュアップ

を図るため、当社、商工会、役場、JAで連携し、南会津町の地域ブランド農産物である南郷トマトを使用した「アスパラパスタ用トマトソース」の開発を行いました。開発にあたっては、ときには怒声も飛び交うほどに、納得がいくまで徹底的に作り直しを重ね、完成にこぎつけました。同時に、購入後にすぐ調理可能なように麺とソースをセットにし、お土産に適した形状で、尚且つ商品の魅力が伝わりやすいようにパッケージを刷新し、訴求効果を高める工夫を行いました。

完成後は「福島島の美味しいもの食のフェア」等の物産展へ積極的に出展し、お客様と直に接しながら販売を行いました。ある物産展では、初日に購入されたお客様が次の日もわざわざ購入にいらしたことがあり、それまでの苦勞を思い出し、うれしさのあまり涙が出そうになったこともあります。

現在は、「みちの駅たじま」、「まちの駅南会津ふるさと物産館」、「会津田島駅内やまなみ」にて販売しています。

今後の展開

常設販売は現在三か所のみですが、今後はさらに販路の拡大に取り組んでいくほか、地域資源の新たな活用法を研究し、商品開発を進めていきたいと考えています。

また、設立から今日まで苦勞の連続でしたが、周りの多くの人に支えられて続けてこられたのだということに肝に銘じ、これからも前進し続けられるよう頑張つていきます。



駅ナカアンテナショップ「福島美味」コーナー



地域資源を活かしたふくしま産品づくりに意欲的な中小企業者(事業者)に試験的な販売促進・販路拡大の場を提供することで、売れる商品の開発・改良・販売・販路拡大の取り組みを促し、地域6次化産業の活性化と雇用安定に資することを目的として、オープンいたしました。

1

営業案内

平成26年3月1日(土) 9:00~20:00

福島駅西口「パワーシティピボット食品館入口」

2

事業内容

県内の主要新幹線駅である福島駅にふくしま産品を展示販売するコーナー(駅中アンテナショップ)を設けます。県内外の消費者へふくしま産品に生産者の直接的な説明を加えて販売する。販売を通じてふくしま産品の品質の高さとこだわりに関する情報を発信することで、新たなブランドイメージを築き上げる。商工会等地域の支援機関が当該事業者の商品力向上を支援し、新たな事業の雇用確保に努める。

3

ショップイメージ



福島
美味

FOOD BRAND
Delicious Brand Fukushima Societies of Commerce and Industry Recommends

福島美味 7つの商品選定基準

- 1 SAFETY 安全性を確認しています。
- 2 QUALITY 品質には自信があります。
- 3 UNIQUE 独自の魅力をもっています。
- 4 LOCAL 福島ならではの商品です。
- 5 STORY 伝えたい物語があります。
- 6 DESIGN デザインにもこだわっています。
- 7 TREND 今の生活者が求めている食品です。

福島美味宣言

もともと福島はとても豊かな地域です。
水がいい、米がいい、気候がいい。
だからここで作られた食品やお酒は
どうやってもおいしくなる運命なのです。
ただ口べたで、その魅力を発信するのは苦手でした。

でもあの不幸な事故があった今、
もう口べたで苦手だからとは言ってもらえません。
安全性を徹底的に追求するのは当然ですが
福島の食品のおいしさや魅力や物語を
もっともっと積極的に伝えていこう、と決意しました。

私たちは県内から7つの基準を満たした商品をセレクトし、
作っている人たちの物語とともに
“福島美味”として日本全国にアピールしていきます。

決して完成したブランド品ではないかもしれない。
でもみんなと一緒に盛り上げてドラマを共有してくれたら、
大きく育つ可能性がある、本気で美味しい商品ばかりです。

これまでの、あたたかい応援には、本当に感謝しています。
これからは、私たちに皆さんの食生活を応援をさせてください。

商工会青年部長リーダー研修会の開催

平成25年11月16日、商工会青年部長リーダー研修会が開催されました。相双地区復興モニターツアーとして、飯舘村、南相馬市(小高区・原町区・鹿島区)、浪江町の視察を行いました。震災後2年以上経った今でも変わらない現状の視察となりました。南相馬市小高区ふれあい広場では、小高商工会青年部副部長 片岡太成氏より小高区の現状報告がされ、「何かして欲しいことはないんです。皆様にはこれまで十分すぎる支援をいただきました。今は、この現状を伝えていって欲しい。」と切実な思いが語られました。



浪江にて



小高にて



浪江にて

青年部主張発表全国大会(埼玉大会)の開催

平成26年2月4日、埼玉県さいたま市「さいたまスーパーアリーナ」において、第15回商工会青年部全国大会が開催されました。本県からの参加者は昨年に比べ4倍以上の146名となりました。

今大会の中で、佐々木県青連会長と関根県青連副会長が登壇し、東日本大震災復興現状報告を行いました。相双地区復興モニターツアーで感じた想いや福島県が頑張っている姿を全国から集まった約5,000人の青年部員を前に、スピーチされました。



復興現状報告



復興現状報告



埼玉会場入口にて

平成25年度4R運動推進セミナー及び 青年部女性部復興支援事業報告会の開催

4R運動推進セミナー及び青年部女性部復興支援事業報告会は、青年部・女性部員約124名の参加のもと1月27日(月)郡山市ビッグパレットふくしまにおいて開催されました。

午前の部は、青年部女性部の代表4商工会による補助事業の事業発表が行われ、また午後の部は、「地域振興」をテーマに4R運動推進セミナーが開催されました。

今回4Rセミナーは、県外で活躍されている青年部長、女性部長に直接来ていただき、部の事業内容について講演をいただきました。参加された方々からは、地域資源の掘り起こしや活用方法、また自ら事業を立ち上げ目的に向かって事業展開している姿にとっても刺激を受けた等々の感想を多くいただきました。(※なお、事業報告・講演を行った方は、下記の通りです。)



青年部女性部復興支援事業報告会(午前中の部)



○富久山町商工会青年部 部長 岩崎 大樹
「単会一世代を超えて地域を再発見 ふるさと街並み写真館事業」



○飯野町商工会女性部 部長 佐久間信子
「広域一心つなげよう!良い聴き手になるために傾聴セミナー」



○小川町商工会青年部 監事 藁谷 佳人
「単会一ふたつや文学ロック~自然・宇宙・郷土をうたう~」



○中島村商工会女性部 部長 熊倉うめ 副部長 矢内晶子
「広域一元気な笑顔・明るい未来!進もう福島復興支援事業」

4R運動推進セミナー(午後の部)



【山形県】
寒河江市商工会青年部
部長 國井輝明
「必要とされる商工会青年部へ」
地域を想い、私たちが創る



【秋田県】
ゆざわ小町商工会女性部
部長 折原弘子
「小町と少将のロマンを訪ねて」
詩の街ゆざわ 短歌でまちおこし



単会青年部日本一を目指して、平成23年度全国統一商工会青年部員増強運動-部員増加実績第1位(青年部員数120名 2013年5月現在)。

定住人口増加や青少年育成のために、プロジェクトを立ち上げ、地元の慈恩寺を題材にした絵本を作成、また話題性を高めるためにメガブックとして作成した。その他に男女の交流をねらった「寒河江スウィーツスウィーツ」事業を展開するなど、全部員一丸となって事業を推進している。

平成25年「まち(地域)づくり顕彰」東北・北海道ブロック代表として商工会全国大会にて顕彰授与。

小野小町と深谷少将の伝説に着目し短歌会を開催し、全国に短歌の湯沢を発信する。また、地元史跡を巡り短歌を詠んでいただく「おもてなし吟行プラン」を開催したり、ゆるキャラ作成に取り組む等、今後も小野小町と短歌で有名なまちとして位置づけられるよう更なる事業を展開している。



自分の夢を叶えて・・・

震災前は、大熊町の東京電力第一原発の3キロ圏内にお店を構えていました。

店主の折原勉さんは、もともとは寿司職人で、浪江町に本店がある寿司屋の富岡町店の店長を経て、念願の店を大熊町に平成17年7月オープンさせました。

店は、奥様の美恵子さんと、従業員数名で営業していました。オープン当初は、折原さん以外は皆素人。それまで主婦だった奥様と、従業員も経験が浅かったため、接客などなかなかスムーズにいかずお客さんに怒られる事もしばしばあったといえます。しかし全員の努力の甲斐もあり、だんだんと顧客も増え、町にも浸透し、順調に進んでいた矢先、あの日がやってきました。

東日本大震災 復興応援プロジェクト版

震災から3年・・・

人々の記憶が薄れていく中、復旧・復興は思うように進まず、戻りたくても、戻れない状況にある方たちがまだまだたくさんいます。

「忘れようにも忘れられない事」、「忘れてはいけない事」それぞれありますが、とにかく「前に向かって歩き出さなければ何も始まらない」

そんな思いで再起をかけ頑張っている事業所を紹介します。

人気の親子丼
温玉のせ

ミニサラダ・茶碗蒸し
汁物もついています



とろたくスタミナ丼



夜メニューの酒類も
種類が豊富です



大熊町からいわき市で再スタート

東京電力福島第一原発事故で、突然の避難命令・・・

家族とともに県外へ避難を余儀なくされました。夢をあきらめきれず福島へ戻り、新天地で再開を決意し、平成25年10月7日「お食事処 一心」をオープンさせました。

大熊町

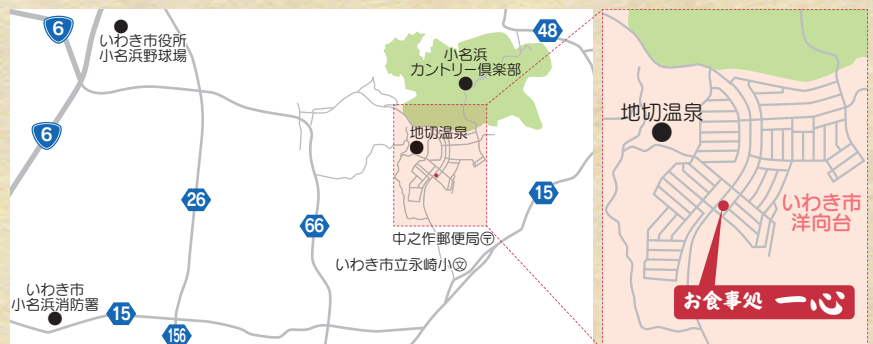
お食事処 一心

店主 折原 勉さん

TEL 0246-55-8667 いわき市洋向台5-1-2

■ 営業時間 / 11:00~14:00 17:00~22:00 (ラストオーダー21:00)

■ 定休日 / 月曜日 第1火曜日 (予約があれば営業 要相談)



迷いながらの再スタート

店は大熊町にあり、植葉に住まいがありました。どちらも津波・建物倒壊の被害はありませんでしたが、原発事故後に突然の避難命令を受け、家族（奥様、娘さん二人）とともに、埼玉に住む奥様の妹さんのところへ避難しました。じっとしてられない性格もあり、すぐ職安で職探しを始め、四月の初めには折原さんは老人ホームの厨房で、奥さんも別の場所で働きはじめました。避難先での生活も2年半が経過し、いつ戻れるかわからない苛立ちの中、生活が定着しつつあり、迷いが生じました。「このままここで暮らそうか」……

そんな時、転機は訪れました……奥様の実家がいわき市の豊間にあり津波で流され、近くの洋向台に転居したのがきっかけでした。奥様と二人でその地を訪ずれた時、以前ラーメン屋だった空き店舗があるのを知り、たまたま店舗の上は賃貸のアパートになっていたの、転居して開業することを決意。寿司屋での再開は難しく、止むなく食堂としてオープンする事に決めました。そして平成25年8月に、いわき市へ転居。開業の準備にとりかかり、同年10月に「お食事処 一心」として再開しました。

新たな挑戦

「新分野での挑戦であるため、日々勉強中」「地域の方たちが気軽に足を運び、親んでもらえる店にしたい」「頑張りすぎず、細く長く続けていきたい」とお二人とも柔らかな笑顔で語ってくれました。



この「のれん」は、大熊のお店でつかっていたもの。現在の店内に掲げられています。



店主の折原勉さんと奥様の美恵子さん
いろいろな苦労も二人三脚で乗り越えてきました。
手前の看板も大熊のお店にかかげられていたもの。



「こうして再開できたのも、いろいろな方からの支援があったからこそ」と語る奥様の美恵子さんは、感謝の気持ちを忘れないようにと、このエプロンで毎日接客しています。

駄菓子コーナーもあります



お店がある洋向台は、500世帯、約2,000人が暮らす住宅地で子供たちも多い。そのために店内に駄菓子コーナーを設置しました。子供たちが来る時間帯は、お店の休憩時間でもあるためたくさんふれあえます。「子供たちの笑顔がみられる

のが楽しみ」「その笑顔から毎日元気をもらっています」とご夫婦そろって大の子供好き。定休日になると、ご夫婦そろって駄菓子を仕入れに行くのが最近の楽しみの一つにもなっているそうです。



ポリウム満点
手作りかつ丼セット



レディースセットは麦とろ御膳に4点盛り付き
とてもヘルシーです

おすすめは、丼もの・定食などのセットもので、セットにはすべてミニサラダ・茶碗蒸し・汁物がついています。(昼・夜共通)

レディースセット	900円	とろたくスタミナ丼	870円
かつ丼セット	850円	ハンバーグ定食	750円
焼肉定食	750円	ミックスフライ定食	750円
親子丼	680円	うどん・そば定食	600円
		(いなり2個付き)	

この他にもラーメンなど単品メニューもあり、夜メニューとして酒類・一品料理も豊富に取り揃えてあります。

ズムアツツ。

元気印

県内4地域の商工会から、地域でがんばっている会員企業をご紹介します。
みなさんの経営のヒントになるお話もたくさんいただきました。
是非、ご感想を福島県商工会連合会までEメールにてお寄せ下さい。(f-wing@do-fukushima.or.jp)

県北

伊達市商工会

「生鮭と糍の出会い！」 紅葉漬



福島紅葉漬株式会社
代表取締役 丹野 善一氏

〒960-0729
福島県伊達市梁川町希望ヶ丘10
TEL 024-577-0658/FAX 024-577-2546
http://homepage2.nifty.com/
abukumakouyou/main.html

■風評被害に負けない!

中年層以上のほとんどの方が知っている有名な伝統食品「阿武隈の紅葉漬」。漬け上がった鮭の身と糍の色合い、紅葉の季節の鮭で造ることが名前の由来です。



その紅葉漬は東京電力の原子力災害の影響により風評被害が広がり、売上が著しく減少しました。そのため丹野社長は既存取引先はもちろんのこと、新たな取引先の開拓と製品の安全を訴えるため、県内外の物産展等のイベントに積極的に出展されておりました。

商工会としては、知名度ある事業所の製品の消費拡大は、地域全体の風評払拭に繋がると考え、風評被害払拭消費拡大事業における「食のフェア」への出展を提案、会津と郡山の両会場に出展して頂きました。その感触を元に、広島県「福島美味セレクトフェア」出品、東京駅地下「福島美味ストリート」出展、

東京・大阪「被災事業者等販路開拓支援展示商談会」参加、県首都圏情報発信拠点プレオープン出品等々、積極的に出展され風評払拭に努力されております。

今後も各種情報の提供と支援により、心を染める故郷の味「紅葉漬」を広め、伊達市をPRしていただきたいと思います。

■商工会と共に

これまでは、商工会役員として商工会事業運営に関わってきましたが、自社経営については特段の支援は受けておりませんでした。しかしながら、今回は原子力災害による風評払拭、地域復興、そして当社売上向上のため、各種の出展・出品事業の紹介、そして現場での販売支援等きめ細やかな協力をいただき感謝しております。

これからも会員等事業所要望に沿った各種支援指導をお願いいたします。



県中・県南

大越町商工会

「料理を通じた食文化・おもてなしの発信」



割烹加賀
(株)アクティブモンド
代表取締役 白石 政法氏

〒963-4111
田村市大越町上大越字久保田45-3
TEL 0247-79-2469
FAX 0247-79-3347

■事業所紹介

当店は、昭和40年大規模工場操業にわく大越町に、すしカウンター併設の飲食店としてオープンしました。その後、昭和52年同町内に結婚式場を兼ねた別館を開店、これが現店舗「割烹加賀」として現在に至っております。当初、地元企業の隆盛と共に順調に歩み、また冠婚事業は盛業の兆しの時期でした。

平成バブル期、素人料理からの脱皮が必要と判断した現社長は平成8年から12年の間、海外のレストラン・ホテル等で再修業し、その間の様々な体験が平成25年法人化のきっかけのひとつとなりました。その際、独自文化が強く根ざしていないこの地に何とか「世界で負けない商品」を作ろう、と思い立ちました。3.11の原発事故によりこの地ではもう無理なのかと掛けそうになりましたが、まずは現業飲食からみた地域文化の創生に乗り出す事としました。

■パートナーに恵まれて

現在、法事等の仏事宴会、祝宴、一般宴会では店内の大宴会場をご利用いただいておりますが、半面個室対応では充分なおもてなしができ

ておりません。このような悩みを抱え大越町商工会に相談したところ、本多指導員・中通り指導センターの佐藤指導員よりホームページの開設、ネット販売できる特産品の開発等の助言をいただきました。また、JETRO(日本貿易振興会)サービス業部門の方々からも各種サポートを受け、平成24年12月にはJETROサービス業海外視察団の一員としてタイバンコクでのプレゼンテーションの機会を戴きました。風評被害を乗り越えて福島産品が彼の地のスーパーで販売されているのを目にし、奮い立たせられました。

飲食業は料理を作る「調理」とお客様にお出しする「接客」によって成り立つ業です。当店ではこの二点に磨きをかけ地域の皆様に感動を与えるような店作りをしていきたいと思っております。



会津

猪苗代町商工会

「真の土産品をつくりたい」



志賀米店

志賀 長人氏

〒969-2273

福島県耶麻郡猪苗代町開都字穂成1255

TEL 050-3471-4614

FAX 0242-93-8017

E-mail:kenske2000628@fork.ocn.ne.jp

■地元産そばへのこだわり(福島経営指導員)

志賀米店さんがつくるのは、地場産のそば粉にこだわった無添加「そばせんべい」。一枚一枚手で焼きあげる煎餅は、作り手の想いが詰まった素朴でやさしい味に仕上がります。また、同じそばの実でつくる「そばほん」は「ふくしまおいしい大賞2012」のスイーツ部門優秀賞に輝いた逸品です。



一方、手造り・地場産にこだわるが故に、高コスト、少量生産が課題でした。そこで、高付加価値商品が集う物産展への出展支援を中心に、商品のブラッシュアップを行いながら販路開拓のお手伝いをさせていただきました。「福島的美味いもの食のフェア」出展に際しても販促支援を行っています。

非常に強い情熱をもって事業に取り組んでおり、商品開発にも意欲的な志賀米店さん。今後も積極的に支援させていただきたい企業です。

■商工会とのかかわり(志賀氏)

かつて観光業に従事していた私が、「地元産原材料にこだわった本物の土産品を作りたい」と菓子製造業を起業したのは平成22年でした。全くの素人であり商工会にも馴染みがなかった創業当初は、相談相手がなく、全てが手探りの状態でした。食感や味が思い通りにいかず、何度も試行錯誤を繰り返し、ようやく納得のいく商品が完成しましたが、東日本大震災の影響もあり、大きな課題となったのは販路でした。

そんなとき、商工会から声を掛けていただき、販路開拓や商品ラベルのブラッシュアップなどを支援していただきました。現在は、パッケージの見直しについて相談しています。

今後は、個別の企業支援に加え、異業種連携による商品開発や、地場産品を活用した地域のブランディングといった、小規模企業単独では実現が困難なテーマについての役割を商工会に期待しています。



浜通り

四倉町商工会

「創業直後の悪夢 大震災を乗り越えて」



株式会社 やまかく (四倉港うまいもんや やまかく)

代表取締役 河村 直典氏

〒979-0201 いわき市四倉町東三丁目136-11

TEL 0246-68-7845/FAX 0246-68-7895

営業時間 午前11時～午後1時30分(OS) 午後5時～午後10時(OS)

定休日 火曜日

■「食」を通じて地域と共に復興



(株)やまかくさんは、四倉海岸を一望できる最高のロケーションの中で和食を楽しむ飲食店です。

河村社長は地元で採れた食材を多くの方々に美味しく食べて頂きたい熱い思いから、十数年の技術習得を終え帰省し、平成22年4月に開業しました。新鮮で繊細な料理が好評を得て、地元客や遠方からの客足も伸び始めた矢先に3.11東日本大震災が発生しました。地震・津波によって自宅は全壊、店舗も半壊になる甚大な被害を受けただけでなく、原子力災害によって地元食材がまったく確保できない苦境に立たされ、休業を強いられました。ライフラインが寸断され、先がまったく見えない中でも前向きな社長は、仕入ルートの再構築や店舗修繕をいち早く済ませ、平成23年5月には事業再開。震災ボランティアに来て下さった方々のための格安復興メニューや両親が経営する海産物加工会社と連携

したメニューづくりなど、浜通り特有の「魚を食す文化」を復興するため尽力しております。若手企業ながら今後も風評被害払拭、交流人口増加による地域経済活性化の一翼を担ってくれる企業だと期待しております。

■商工会は地元企業のサポーター

故郷の海辺でとにかく「うまいもん」を皆様に食していただきたい!と始めた店でしたが、経営初心者の方にとって苦労の連続でした。特に労務や経理など管理全般の仕事は思いのほか苦労させられ悩みの種でした。そんなときに、商工会の親身で丁寧な指導はとても有り難く心強い存在でした。さらに津波被害後の営業再開に向け復旧復興助成金等の書類作成の際も休日返上で手伝っていただきとても感謝しております。今後も「うまいもん」で地域に恩返しをしていきたいと思っております。



Information

商工会だより

伝統と文化の継承と、急速に発展する地域とともに歩む

片平町商工会



片平町商工会長の河治勝一です。

片平町商工会は郡山市の真ん中に位置する町で人口は約七千人です。コメの生産が盛んで、北に郡山西部第二工業団地、ハイテクプラザがあります。

平成二十六年四月一日、独立行政法人産業技術総合研究所(産総研)福島再生可能エネルギー研究所が、「世界に開かれた再生可能エネルギーの研究開発の推進」と「新しい産業の集積を通じた復興への貢献」を大きな使命とし開所します。

さらに、既存の高速自動車国道の有効活用や、地域生活の充実、地域経済の活性化を推進するため(仮称)郡山中央スマートインターチェンジが片平町に建設される予定です。

急速に発展する環境の変化に対応しながら、つねに地域社会経済の発展と商工業者の繁栄を願って、豊かな地域づくりに貢献するとともに、会員のニーズに的確に対応し、いつも身近でお役に立てる商工会運営に尽く

してまいります。

采女(うねめ)伝説

約千三百年前、陸奥の国安積の里(現・郡山市)は冷害が続ぎ朝廷への貢物ができないほどだった。このため奈良の都から巡察使葛城王が訪れた。里人たちは窮状を訴え貢物の免除をお願いした。しかし、その願いは聞いてくれなかつたという。

その夜、王をもてなす宴が開かれ、王は里長の娘、春姫を見そめた。春姫は心から王をもてなし、

安積香山

影さへ見ゆる山ノ井の

浅き、心をわが思はなくに

(解説)

どうしてご機嫌が悪いのですか。安積山のふもとに山ノ井の清水があります。安積山の影を水面に映し、浅い井戸のように思われますが、どうして、どうして、とても深い清水です。それと同じで私たちが王をお慕いしている気持ち、はとても深いものです。どうかご機嫌を直して下さい。

と詠み献上した。



王は大変喜び、春姫を帝の采女として献上することを条件に、貢物を三年間免除することになった。春姫には、次郎という相思相愛の許嫁がおり、悲しみをこらえて別れた。都での春姫は、帝の御寵愛を受けていたが、仲秋の名月の日、次郎恋しさに猿沢の池畔の柳に衣をかけ、入水したように見せ、愛する次郎の待つ安積へ向かった。里へたどりついた春姫は、次郎の死を知り、雪の降る夜、あとを追って次郎と同じ山ノ井の清水に身を投じた。やがてみちのく安積の里にも春が訪れ、山ノ井の清水のまわり一面に名も知れぬ薄紫の美しい可憐な花が咲き乱れていた。

第十四回うねめの里冬火花

東日本大震災復興を祈願する「うねめの里冬火花」を二月七日、郡山市の片平ふれあいセンターで開催した。全国の有名花火師たちの七号玉が冬の夜空に豪快な花火を打ち上げた。県内花火業者によるオープニング花火、全国十四社による七号玉コンクール、最後は復興祈願花火で締めくくった。

庄巻は七号玉の打ち上げ競技会。打ち上げも佳境に入ると、大玉の花火が次々と打ち上げられ、会場周辺や遠くの沿道に集まった観客らを楽しませた。

また、須賀川市の糸井火工のミュージック花火も人気を集めた。この夜は約三千発の花火が打ち上げられた。復興祈願花火は昨年から行われているが、冬花火は十四回目。高さ四メートルの塞ノ神(どんと焼き)、岩代國うねめ太鼓小若組の太鼓などで賑わった。復興祈願花火は今回で終了。



Information

商工会だより

事故と避難の逆境から 新しい村づくりを目指して

川内村商工会



川内村商工会長の井出茂です。川内村は福島県浜通りの阿武隈山系の中部に位置する人口約三千人の小さな村です。

東日本大震災並びに東京電力福島第一原子力発電所事故により、平成二十三年三月十六日に全村民避難となり、郡山市へ集団避難致しました。その後、村内の放射線量が低いことや原発事故拡大リスクが低くなったことを背景に、帰村宣言を経て、平成二十四年四月一日に住民の帰還が始まりました。

当商工会も商工会南双葉広域連携協議会の広野町、楢葉町、富岡町商工会といわき市に事務機能を移してありますが、住民帰還が始まった同じ日に村に戻りました。

現在百二の会員事業所のうち、七十八事業者が再開し内六十九事業者が村に戻り再開致しました。

当商工会では会員事業所の事業再開支援や再開後の経営支援など役員一同全力で取り組んでおります。

また、村行政と連携し

ながら、村民の買物利便性の向上、失われた地域コミュニティの再生、交流人口拡大などを目的とした商業施設の開設準備を進めております。

あれこれ市場

川内村の主な産業は農業のため、生産者が市場以外へ出荷できる機会を提供し、消費者の生の声で生産意欲を向上させ、消費者が採れたての新鮮野菜などを購入できるように、農産物等直売所「あれこれ市場」をオープンしました。震災後、休業しておりましたが、道の駅ひらた様をはじめ、多くの方々にご支援・ご協力を頂き、平成二十四年七月に再オープンを致しました。ご支援・ご協力を頂いた皆様に対しこの場をお借りして心より御礼申し上げます。現在は農産物の販売に加え、村内の交通弱者の方々のために、宅配事業、移動販売事業、タブレット端末機を利用した販売を行っています。

また、震災以降いまだに村内の小売業者への物流がストップしているため、「あれこれ市場」を介して共同仕入を行っております。共同仕入れの流れは、①各小売業者から食料品などの注文を受付 ②あれこれ市場で契約しているボランティアチェーンに一括して発注

③郡山市の仮設住宅隣の「あれこれ市場郡山店」に納品 ④全国連から借りている軽トラックで川内店まで運搬し保管 ⑤各小売業者へ商品の提供、このようなシステムで、川内村の小売・流通の中核的な役割を担っています。



市場には、村の特産品のほか「かわうちTシャツ」や「バッジ」なども販売しております。また、地域情報の発信、憩いの場の提供も致しております。近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

かわうちの湯

かわうちの湯は、村の交流施設であると共に村民はもとより、双葉郡、全国から訪れる観光客の憩いの場でありました。

東日本大震災により、各所に地震の影響を受けました。特に露天風呂の損壊が激しく、ヒビ割れ・水漏れが起きて使用できなくなりました。しかし、それ以外の箇所は多少の損壊はありましたが、使用することができましたので、平



成二十三年八月に臨時営業を始め帰村した村民、除染作業員など多くの方に利用して頂き、川内村のにぎわい回復の一役を担っていました。

しかし、震災で受けた損壊個所が徐々にひどくなり、お客様が安全・安心に使うて頂く事ができなくなりました。村にとって象徴的な施設であり、この施設が復旧・復興することで地域コミュニティ再生や村民の帰還促進の一助になつてもういたいと思ひ、復興庁の帰還加速化事業の支援を受け、平成二十五年六月より大規模な改修工事を始めました。

現在、平成二十六年四月五日にプレオープンを予定し、それに向けて準備を進めております。当日はいろいろなイベントを用意しておりますので、ぜひ多くの方々の来館をお待ちしております。

福島県アンテナショップ

『日本橋ふくしま館～MIDETTE～』オープン

福島県の首都圏情報発信拠点(アンテナショップ)が
4月12日に東京・日本橋にオープンします。

目的

- ① 全国への情報発信基地であり、最大の消費地である首都圏において、本県の観光・物産の販売・PR、復興に向かう本県の取組み等の発信、生産者と消費者など様々な分野の交流、避難者への情報提供等、総合的な情報発信を行う拠点施設を整備することにより、原子力災害によって低下した「ふくしま」のブランドイメージの回復、風評払拭の加速化、更には県外における災害の記憶風化の防止を図ります。
- ② 当該拠点を通じて、風評の深刻な影響を受けている県産品事業者の販路開拓及び商品力の向上支援、並びに観光誘客や人的交流促進の取組みを総合的に展開することにより、県内経済及び地域の活性化に繋がります。

テーマ

- ① 震災から復興に向かう「ふくしま」の元気を「人」、「食」、「技」、「景観」等で発信
- ② ふくしまの本質を伝え、交流を深め、「より愛されるふくしま」に進化

目標

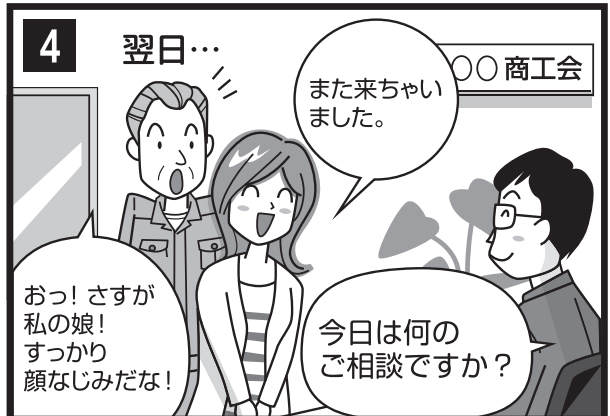
年間の利用者数「20万人」、総売上「3億円」を目指します。

〒103-0022

東京都中央区日本橋室町4-3-1 柳屋太平ビル1階

消費税の転嫁対策は、お済みですか？

事業者の皆さま、消費税に関する経営のご相談はお近くの商工会にご相談ください。



消費税転嫁対策窓口相談等事業
福島県商工会連合会

お問い合わせ

〒960-8053 福島県福島市三河南町1番20号 コラッセふくしま9階
TEL:024-525-3411 FAX:024-525-3413
http://www.f.do-fukushima.or.jp/